(Stop Tracking) No active trail

INSIDE DELPHION

PRODUCTS

RESEARCH

Help

My Account

Search: Quick/Number Boolean Advanced Derwent The Delphion Integrated View Work Files ഗത്രി

Email this to a friend Add Tools: Add to Work File: Create new Work File Go to: Derwent Buy Now: V PDF | File History | Other choices View: INPADOC | Jump to: Top

JP57184430A2: HIGH CONCN. LOW VISCOSITY CALCIUM CARBONATE AQUEOUS DISPERSION AND COATING COMPOSITION THEREFOR **®**Title:

Conc. aq. calcium carbonate dispersion - having low viscosity, used to prepare coating PDerwent Title:

compsn. [Derwent Record]

JP Japan P Country:

FURUSAWA YONEMASA; @Inventor:

**CANAGUCHI TOSHIO;** SUKISAKA RYOGO;

**NOBUHARA MASAAKI**;

SHIRAISHI CHUO KENKYUSHO:KK 

News, Profiles, Stocks and More about this company

1982-11-13 / 1981-05-07 ® Published / Filed:

JP1981000069140 **8** Application

Advanced: <u>B01F 17/00; B01F 17/52; B01J 13/00; C09D 1/00; D21H 19/38;</u> PIPC Code:

Core: D21H 19/00; more..

PC-7: **B01F 17/00**; B01F 17/52; B01J 13/00; C09D 1/00; D21H 1/22;

1981-05-07 JP1981000069140 Priority Number: PURPOSE: To obtain the high concn. low viscosity calcium and an inorg. electrolyte to two kinds of calcium carbonates carbonate aqueous dispersion by compounding a dispersant & Abstract:

shapes respectively and of which particle sizes are differet to which have specific uniform particle sizes and a particle

page mage

consisting of 60W95wt% precipitated calcium carbonatelwith 0.01W10pts.wt. inorg. electrolyte such as calcium hydroxide or the like are compounded. By this method, filling density of concn. low viscosity calcium carbonate aqueous dispersion is mutual calcium carbonate particles is enhanced and the high precipitated calcium carbonate II having an average particle size 0.2W0.8 times of the above described average particle size, 0.1W10pts.wt. high molecular polycarboxilic acid type CONSTITUTION: To 100pts.wt. mixed calcium carbonate an average particle size of  $0.1W1\mu m$  and 5W40wt%dispersant such as polyacrilic acid or the like and

COPYRIGHT: (C) 1982, JPO& Japio

None 8 Family:

**®** Forward References:

9	Go to Result Set: Forward		references (6)			
Buy PDF	Patent	Pub.Date	Inventor	Assignee	Title	
*	<u> </u>		-20 Michl; Kathrin	BASF Use of polyacrylic and the second school school by the second school by the second secon	Use of polyacrylic acids as grinding aids for calcium carbonate	
*	US5879442   1999-03-09 Nishiguchi;     US5879442   Hiroyuki	1999-03-09	Nishiguchi; Hiroyuki	Okutama Kogyo Co., Ltd.	Okutama Kogyo Co., <u>carbonate and ground calcium</u> Ltd. <u>combination</u>	
*	<u>US5236989</u>	1993-08-17	图 US5236989 1993-08-17 Brown; Alan J.	ECC International Inc.	Aggregated composite mineral pigments	
-33	US5068276 1991-11	1991-11-26	-26 Suitch; Paul R.		E.C.C. America Inc. Chemically aggregated mineral pigments	
*		1987-12-08	Matthews; Kenneth B.	Blue Circle Industries, PLC	Compositions comprising mineral particles in suspension and method of treating aqueous systems therewith	
æ	US4610801 1986-09-09 Kenneth B.	1986-09-09	Matthews; Kenneth B.	Blue Circle Industries PLC	Compositions comprising mineral particles in suspension and method of treating aqueous systems therewith	

CHEMABS 098(20)162705J **9Other Abstract** 







HIGH CONCN. LOW VISCOSITY CALCIUM CARBONATE AQUEOUS DISPERSION AND COATING COMPOSITION... Page 3 of 3

(D) Nominate this for the Gallery...

THOMSON RELITERS

Powered by Verity

Subscriptions | Web Seminars | Privacy | Terms & Conditions | Site Map | Contact Us | Help

Copyright © 1997-2009 Thomson Reuters

first Hir.

Previous Doc

Next Doc

Go to Doc#

Generate Collection

L3: Entry 34 of 42

File: DWPI

Print

Nov 13, 1982

DERWENT-ACC-NO: 1982-10359J

DERWENT-WEEK: 198251

COPYRIGHT 2006 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Conc. aq. calcium carbonate dispersion - having low viscosity, used to prepare coating

compsn.

PATENT-ASSIGNEE:

ASSIGNEE

CODE

SHIRAISHI CHUO KENKYUSHO KK

SHIRN

PRIORITY-DATA: 1981JP-0069140 (May 7, 1981)

Search Selected

Search ALL

Clear

PATENT-FAMILY:

PUB-NO

PUB-DATE

LANGUAGE

PAGES MAIN-IPC

JP 57184430 A

November 13, 1982

012

INT-CL (IPC): B01F 17/00; B01J 13/00; C09D 1/00; D21H 1/22

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 57184430A

BASIC-ABSTRACT:

Dispersion is prepd. by mixing 100 pts. wt. of a mixt. of 60-95 pts. wt. <u>calcium carbonate</u> (I) (ave. particle size: 0.1-1.0 microns) and 5-40 pts. wt. <u>calcium carbonate</u> (II) (ave. particle size: 0.2-0.8 times that of (I)), 0.1-10 pts. wt. dispersing agent consisting of <u>polyacrylic acid</u>, and 0.01-10 pts. wt. inorganic electrolytes, total solid concn. being 60-80 pts. wt.

Coating compsn. is prepd. by mixing 5-25 pts. wt. binder with 100 pts. wt. <u>dispersion</u>, the total solids concn. being 50-70 pts. wt.

. Coating compsn. prepd. exhibits a high adherence to paper to produce a good quality coated paper.

TITLE-TERMS: CONCENTRATE AQUEOUS <u>CALCIUM CARBONATE</u> DISPERSE LOW VISCOSITY PREPARATION COATING COMPOSITION

DERWENT-CLASS: E33 F09 G02

CPI-CODES: E34-D03; F05-A06B; G02-A05C;

CHEMICAL-CODES:

Chemical Indexing M3 \*01\*
Fragmentation Code
A220 A940 C106 C108 C530 C730 C801 C802 C803 C805
C807 M411 M781 M903 M910 Q130 Q324 Q332 Q333 R024

UNLINKED-DERWENT-REGISTRY-NUMBERS: 1278U

### ⑲ 日本国特許庁 (JP)

10特許出願公開

## ⑩公開特許公報(A)

昭57—184430

⊕Int. Cl.³	識別記号	庁内整理番号	❸公開 昭和57年(1982)11月13日
B 01 J 13/00		7203—4G	
B 01 F 17/00		7203—4 G	発明の数 2 .
17/52		7203—4 G	審査請求 未請求
C 09 D 1/00		7102—4 J	
// D 21 H 1/22		7921-4L	(全 12 頁)

⑤高濃度低粘性炭酸カルシウム水系分散体及び 塗被組成物

願 昭56-69140

②出 願 昭56(1981)5月7日

⑫発 明 者 古沢米正

尼崎市元浜町 4 丁目50番地

@発 明 者 築坂亮吾

宝塚市仁川月見ケ丘15番9号

⑩発 明 者 金口年男

神戸市北区広陵町 4 丁目12番地

⑩発 明 者 信原政明

西宮市甲陽園西山町1番2号

切出 願 人 株式会社白石中央研究所

尼崎市元浜町 4 丁目78番地

⑩代 理 人 弁理士 三枝英二 外2名

#### ・明 編 書

#### 特許請求の範囲

@特

- ① 平均枚価が 0.1~1.0 mm の沈陽世級カルシウム (I) 6 0~9 5 重量 5 と、上記平均粒価の 0.8 ~ 0.8 倍の平均数価を有する沈陽世級カルシウム (I) 5~4 0 重量 5 との提合炭酸カルシウム 1 0 0 重量部に、高分子ポリカルボン酸系分数 所 0.1~1 0 重量部を配合してなり、全国彩分濃度が 6 0~ 8 0 重量 5 で 5 るととを特徴とする高濃度低站 性炭酸カルシウム水系分数体。
- (B) 高分子ポリカルボン酸系分数箱が、アクリル 数重合物、アクリル酸=マレイン酸共富合物、

マレイン酸とステレン、酢酸ビニル又はエテレンとの典量合物から過ばれ、重合物中に少なくとも15分のカルボキシル基を含有する分子量50~10000の水溶性物質及びそのアルカリ塩である特許請求の範囲第1項に回収の

- 事機電解質がカルシウム、亜鉛及びマグキシウムの水酸化物、塩化物、硫酸塩及び鍋塩から 選ばれる特許額束の範囲第1項又は第8項に記載の分数体。
- ④ 任券新申見券払股が100%が以下及び高券 新申見券払股が500%が 以下である仲許確求 の範囲等1項乃重算3項のいずれかに配数の分 会体。

・特徴的57-184430(2)

- (8) パインダーが、でん粉、変性でん粉、カゼイン、ステレン・ブタジエン共置合体、アクリル・ステレン共置合体、メテルメタタリレート。

ブタジェン共産合体、エテレン・酢酸ビニル共産合体、アタリル酸エステル重合体、メタクリル酸エステル重合体、メタクリル酸エステル・メタクリル酸エステル共産合体から選ばれた少なくとも1種の水性エマルジョンである特許環 東の鉛田郷を項に記載の組成物。

#### 益明の評価な説明。

本発明は高濃度価値性炭漿カルシウム水系分数な及び塗被組成物に関する。

世来より世級カルシウムは、水系分数液の形態で低齢工用や水系数料用等に汎用されている。例えば油工紙単昇では、カオリン、クレー等の他の 独工紙用銀料とともに、紙油被料の基礎取料として慣用されている。一般に歯被料として用いられる世級を対しても、数字径が表現となる程紙物

工業面の先民が優れ、白色度、不透明度、インキ受理性等に優れた印刷用紙を与え得るため、特に技术民を要求される高級印刷紙を与え得るため、特に技术で要求される高級印刷度のものが好ましく、またその效度分布も狭い程といとされている。一方上配粒子径が小さくなると、その比良面積が大となり、当然に剪断時にかける粘度が高くない。当然に剪断時にかける粘度がある。とれは最近の高速強工機に応用されるコート紙用金数料として用いるのまた上配数料の低びが思いため重大な難点となる。また上配数料の低が必要かかりの低粘性を確保するには、例えば供量カルシウム粒子を高速度水系にかいて、分数制の存在下に強力機やする方法や供費カルシウム粉束と少量の水とを強力練和したのち水を加え希釈動果を助する方法(Hagemeyor, B.W., Tapp1

Monograph Ser.、Nata, p58) 等が知られている。しかしながら之等の方法では、低點性化と 共化炭酸カルシウム粒子の粉砕による最初化が起っ り、低質断時にかける粘度が高くなり、また粒度 分布が紅がる器点がある。

最近、上記数額投設カルシウム粒子の任何新物 物度を、ある程度低下させる高分子分散剤が研究 開発されたが、との分散剤を用いても、配合物核 料の高質新物の複類性改善(低給変化)には役立 たない。また上記粒子径の減少による比表面後の 増大は、放炭酸カルシウム粒子に吸着情質される 物値パインダー量の必然的増大を意味し、とれは 物工局強変の低下及び印刷物の所開紙むけ(ピッ キング)現象の増大につながる。質に物被料の低 性変化を計るには、その濃度を低下させればよい が、これは乾燥エキルギー損失の増加を招来し、 また地工物の低むけ(ピッキング)低忱の向上に は、パインダー用量の増大が有効であるが、これ によれば得られる地工板の白色度、不避明度、先 見等が低下するのみならず、インキ受理性も悪化 し、印刷時トラブルの原因となる。创始之等機被 料機度の低下及びパインダー用量の増加は、経済 的にも基だ不利である。

以上のように現在知られている療物料用銀料と しての世間カルシウムは、機器々の解決されるべ を問題を有するものであり、低電界においては、 降に高銀料鋼単分譲度で低効性を示し有利に用い 得ると共に、パインダー消費量の増加を伴わず。 所建の優れた銀料特性を奏し得る新しい最額世間 カルシウム粒子及びこれを含む水系分散体の出現 お娘く要達されている。

また水系管料用としての数額投験カルシウムは、 通常酸化チョン等の白色額料と併用されて強化高 光沢エマルジョン管料として有利に用い得るもの であるが、放送料象界にかいても、上記した低度 界と略々同様に、高額料決定で低粘性に調節でき、 しかも樹脂ビヒタル情質量の少ない炭像カルシウ ム水系分数体の出現は、かかいに期待される所で ある。

本籍明者らは兼ねてより供成カルシウムにつき 銀書研究を重ねてきたが、その通程で特定の均一 を粒子径と粒子単軟とを有し、しかも上配粒子径 が特定の関係で相互に相具なつているま程の数据 映取カルシウムを、特定割合でブレンドし、これ に質にある種の分散剤及び無機電解費の所定量を

配合する時には、上記炭酸カルシウム粒子相互の 充填密度が高まり、かくして過業界の要値に合象 する高濃度低粘性の炭酸カルシウム水系分散体が 提供できるととを見い出した。本発明は上記知見 に基づいて完成されたものである。

即ち本発明は、平均粒径が 8. 1 ~ 1. 0 mm の体 降性炭膜カルンウム(I) 6 0 ~ 9 5 重量 5 と、上記 平均粒径の 0. 2 ~ 0. 8 倍の平均粒径を有する沈厚 炭酸カルンウム(I) 5 ~ 4 0 重量 5 との混合炭酸カ ルンウム I 0 0 重量部に、高分子ポリカルボン酸 系分散制 0. 1 ~ 1 0 重量部及び無機電解質 0. 9 1 ~ 1 0 重量部を配合してなり、金田彫分議度が 8 0 ~ 8 0 重量 5 であることを特徴とする高濃度 低粘性炭酸カルンウム水系分散体の 1 9 0 乾 場面量部に、パインダー5~25重量部を配合してなり、全国形分換度が50~75重量をである ととを特徴とする高濃度低粘性炭酸カルンクム系 物質組成物に係る。

本明都書において、世級カルシウム粒子につき 用いる平均粒径をる部は、放粒子の電子開散鏡鏡 寒による鏡敷分布の算術平均径(Dised. #B)をい い、幾何標準鏡差(GB)が 1. 5 以下であるものと する。

本発明においては上記の通り相互に特定の関係で相異なる平均故径を有する 8 種の比降炭酸カルック A を併用するととを必須とする。 之等は、いずれも公知であり、その製法も特に制設はなく、各種の方法によればよいが、例えば主政分とする平均執係 0.1~1.6 mm のそれ())は、特公昭 5 4 -

特別的57~184430 (4)

大に発揮させるため、粒子生成後乾燥工程を得ないで、固形分換度的15累量が以上の超枚体とするかもしくはこれを評過脱水してケーや枚とした形質のものを用いるのが好ましい。

上配二種の沈海炭酸カルシウムの併用は、特に 炭酸カルシウムの海域密度を最密状態乃張これに 近い高密度に保ち得ると共に、得られる水系分数 体の類科特性を抑常に良好なものとなし得る。特 に炭酸カルシウム(i)は、前端したように顔料とし て最も好達を平均粒径を有してかり、また炭酸カ ルシウム(i)は、行の平均粒径及び風合量に基づい て、上配炭酸カルシウム(j)との粒子の充填密度を 最大額に向上すせ得、しかも放炭酸カルシウム(j) の類料としての特性を実質的に風容しない。しか るに炭酸カルシウム(j)単数点は、これと他の粒径

の説像カルシウムとを併用する時にはいかをる併 用割合にかいても、所建の高音状態の充填角景は 開传できず、本発明の所別の高濃度低鉛性を具備 する水系分散体は得られない。また炭酸カルシウム(!)を用いない時には、他の粒径の炭酸カルシウムをいかに付用しようとも顕興特性自体が適局で まず、実用的でない。

本発明の水系分数体は、上配特定の投設カルシ ウム(I)及び投設カルシウム(I)の特定制合混合物に、 所定の分数制及び無機電解質を配合したものであ る。上配分散制としては、提来より公知の各種高 分子ポリカルボン酸系分数制を用い得る。該分数 耐としては何えばアクリル酸混合物、アクリル酸 ーマレイン酸类混合物、アクリル酸 エステル类混合物及びマレイン酸とステレン、像 酸ビニル又はエテレンとの共産合物から退ばれ、 整合物中に少なくとも16%、好ましくは少なく とも20%のカルボキレル基を含有する分子屋 50%~10%86%好ましくは1000~50000の 本等性物質及びそのアルカリ塩(アルカリ金属塩、 アンモニウム塩、アミン塩等)を好ましく用い得 る。その使用量も通常の範囲と異なるものではな く、上配離合炭酸カルシウム100速量等に対し 0.1~10重量等、好ましくは約0.3~5度量等 用いられ、これにより充分所期の効果を表し得る。

また無機電解質は、カルシウム、重鉛及びマダ キシウムの水酸化物、塩化物、硫酸塩及び換塩か も選択される。該無機電解質は、上紀間合炭酸カ ルシウム160重量部に対し、1~10重量部、 好ましくは約3.1~5重量部の範囲で用いられる。

特別昭57-184430(5)

その使用によれば、上記混合炭原カルシウム各粒 子表面の水和層がより少さくなり、之等の充模管 変を一層向上でき、また単複紙性能の向上を計り 得る。

上記炭酸カルシウム(I)・炭酸カルシウム(I)・高分子ボリカルボン酸系分散剤及び無機電解質の所定量配合化よつで、本器明の固形分類配が60~80度最もの高濃度低粘性炭酸カルシウム水系分散体が得られる。その見機粘度は、ブルックフィールド型回転粘度計(8-粘度)による、80℃、60 rpaの低勢斯時で1000 cp3以下であり、をたっ一キュレス高頭断粘度計(且一粘度)による80℃、ポップム、1100 rpaの高勢斯時で500 cp3以下であり、いずれも後来かかる高濃度液では例のない低鉛性で流動性の優れたものである。

本発明の上記水系分数件の資産は、基本的には 通常の方位と同様にして行をうことができる。そ の具体例としては、例えばまず高速回転するイン ペラ式機神機を備えた適当な容易に、副成分とす る炭酸カルシウム団の水器調故もしくはそのブレ ス級水ケーキを仕込み、これに所定量の高分子ポ リカルボン酸系分数耐水溶散の一部もしくは全部 を加え、機神協合して一次分数体故を開鎖する。 次いでこの一次分数体故を開鎖する。 次いでこの一次分数体故を開鎖する。 次いでこの一次分数体故を開鎖する。 次いでこの一次分数体故をに定分とする炭酸カル シウム団粉末を操作でに徐々に加え、夏に最終水 系分数体の粘度に応じて分数無水溶液を通知認知 し、回転を進め操作組合することにより容易に開 調される。

かくして本発明の高級皮低粘性炎酸カルシウム 水系分数体を得る。

本発明はまた上紀水系分散体を用いた高濃定低 粘性炭酸カルシウム系物装組成物にも関している。

本発明の他被組成物は、上記水系分数体に特定 量のパインダーを配合してなり、高濃度及び低鉛 度を有する点に特徴付けられる。上記パインダー には、他工転分野にかいて通常用いられる公知の 各種パインダーがいずれる用いられる。その具体 例としては、例えばでん粉・変性でん粉・カゼイ ン・ステレンーブメリエン共置合体・アクリルー ステレン共置合体・メテルメタクリループタ ジエン共置合体・エテレンー 静酸ビエル共置合体 ・アクリル酸エステル 置合体・メタクリル 数エステル共置合体等を例录できる。之等は水系 強料の分野にかいては、温管ビェクルと呼ばれ、 本明細書においてパインダーとは、之等的科分野におけるビヒタルをも合む意味で用いるものとする。之等は央々単独でもまたま被以上混合しても 関機に用い得る。上記パインダーの使用量は、上 記水系分数体の乾燥固形分 1 0 0 重量都当り、 5 ~8 5 重量都程度とするのが適当である。

本発明の物被組成物は、上記水系分数体に、上 組パインダー及び必要に応じて通常の設加耐例え ば簡複制、保水剤、製情剤、レベリング改良剤、 耐水化剤、着色剤等を能加し、常決に従い機件長 合するととにより得られる。

かくして得られる動物組成物は、金田形分譲度 が50~75重量がと、存常に高級度であり、し かも低齢度を有し、これを基材上に動布し、以後 常後により乾燥を行なうことにより、接着抽底が 着しく向上された絵工器を形成し得る。

本発明組織物を適用し得る基材としては、例えば天然パルプ紙、合成パルプ紙、天然合成優抄紙、合成フィルムシート等の各種シート状物を例示できる。

以上呼速した避り本発明の高級変価粘性炭酸カルシウム水系分数体は、高級変水系で平均枚倍が特定の比で相互に異なっている二種の炭酸カルシウム粒子を用いしかも之等と共に所定の分散組織で解質を用いたため、上配粒子間の充填密度が高く即ち粒子間空煙が非常に小さくをり、放空隙を占める水の避難が生じ、そのため高温度水系でも見掛粘度の上昇は起らず、むしろ低下し、特に高頻斯時の故難性が改善される。

とのことは、本発明水系分数体にパインダーを

持無昭57-184430 (6)

配合した動物組成物を用いて得られる出工紙が、 発来の実際カルシウム水系分数体を用いた動物組 成物(粒子の光質物度が高められていないもの) による動工紙に比して、出工機の通気性を評価す る選気度が非常に悪くなつているととからも明ら かである。

また本発明水系分数体を用いた物製組成物を選用して得られる地工紙は、接着強度が寄しく向上している。とれは上記支質密度の向上された粒子を含む組織物にあつては、その地工層形成にかいて、パインダーの事業が起身にくく、そのため基材紙へのパインダーの優遇がより少なくなり、地工廠金銭に買つてパインダーが均一に分布し、またはパインダーとするラテックス粒子と、無料粒子との機嫌が効果的に行なわれるためと考えられ

ē o

質に本発明他被組成物を用いて得られる他工紙は、粒子の密充模に基づいて、より厳密を他工商を付与され、その先択性、不遵明性等の物性がより一層内上しているに加え、 数額被散カルシウム 類料本来の場合性、インキ受理性等の適性は何ら 徴なわれない利点もある。

とのように本発明は単に高級印刷用紙等に達した優れた競特性を具體する強被組織物及びとれた利用される水系分数体を提供するものであり、その価値は組めて大きい。

以下本発明の特徴とする所を一層明らかにする ため実施例、比較例及び参考例を挙げる。各例中 都及びがとあるは、重量都及び重量がを示するの とする。

#### 宾路例 1

平均枚値( Dx) が 0.0 4 pm (Dx 0 0.2 倍)で固 形分換度が18 手の比棒炭酸カルシウム(Dの水面稠 被 8 2 5 5 (QaQQaとして 1 0 0 5 , 6.2 5 5) を、 8 4 のステンレス容器に付込み、1 / 8 馬カディ スパー(接回鉄工装式会社製,カウレスデゾルパー製器件機)操件下に、分飲剤として「ア=ンサー4 6 J (東面合成株式会社製・アクリル酸ポリ マー)の 4 8 5 水溶紋 4 7.5 5 ( 国形分置 1 9 5 ) 及び 8 8 5 水酸化カルシウム水面剥液 7 5 (Qa (QE) 2 として 1.4 5 ) を加え、1 0 分間接件 組合し、一次分数体被を翻鎖する。

次いて上記一次分数体液化、平均粒径(DI)が 8.3 0 #3 の法等貨限カルシウム(I)の粉末 1500 # (98.7 8 5)を徐々に加えながら操作を続け、 更にまり手水酸化カルシウム水糖酶被まるま ( Oa (OE): としてる 8 )を加え回転速度の違い ととろで80分間機弁配合し、固形分譲度が11 もの水平分野はを揺かっ

との水系分数体の低剪斯時見掛粘度(B-粘度) ブルフタフィールド型回転粘度計,80℃,60 FPR) 及び高男斯時見掛粘度(且-粘度、ハーキ ユレス高剪斯粘皮計、80℃,ポップ&,1100rpm) を夫々毎定した結果を第1妻に示す。

#### 突旋何 1

平均粒径 (DE) 水 0.0 8 pB で固形分換皮がる 8 **乡の沈浄炭酸カルシウム①のフイルタープレス以** 

水ケーキまりり05(CACO。として10005)を 8 4のステンレス容量に仕込み、1/2 単力ディス パー提件下に、分散剤として「アコンT-40」

▲(I)及び(II)の平均粒子及び使用量を央々第1表包 戦の通り変化させる以外は、関様にして央々水系 分飲体を得る。之等の満度及び見掛鉛度を開催に して求めた結果を第1妻に示す。

#### 比較何1~2

実施何1Kかいて沈時炭酸カルシウム①を用い るととなく比岸炎東カルシウム(1)を単数で用い、 また水酸化カルシウムを一度に銀加する以外は同 様だして水系分数体(比較例1)を得る。

また上紀比較何!に≯いて分飲剤として「はイ メる81」(花玉石藤株式会社製 . アクリル酸と マレイン酸との共重合物のナトリウム塩)を、原 料面形分100年に対し、画部分量で 1.2 部用い 母様にして水系分数体(比較何8)を得る。

気に平均粒径(DI)がある #Rの比略炎性カルシ

特開昭57-184430 (ア) のも日子本植被するま(田志分量808)及び 3 0 多水酸化カルシウム水超過放 1 5 5 ( O a (OH)<sub>2</sub> として89)を加え、10分間機辞組会し、一次 分数体放を開発する。

次いで上記一次分数体液に、平均粒径(DI)が &ま●ARの比降炎酸カルシウム(I)の粉末1560g を徐々に加えながら無斧を続け、目に266水池 化オルシウム水製海被858 (Ca(OE)。として6 ♪)を加え、回転速度の速いところで80分間提 辞録会して風影分論度706の水系分数体を得た。

とのものの征募新時及び高勢新時にかける重型 給皮を実施例1と同様にして求めた結果を怠1歩

#### \*\*\* 1~ 4

上記実施何し及びまで用いた沈島炭酸カルシウ

クムを単独で競科として用い、その100部に 「ポイズ581」のも6部(周形分量)を加え、 実施例のと同様にして水系分散体(比较何8)を

各例で得た分数体の過度及び見掛粘度を第1表 に分す。

#### 比較何4及び5

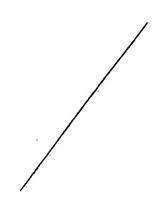
平均粒径(Dz)が 6.8 8 AB (比較例 4 )及び平均 粒铥(Dz) が 0.0 4 μm (比較男 5 ) の 数額 化降炭酸 カルシタムを夫々単数で蘇料として用いる以外は 実施何1と同様にして(但し分散利用量は央々国 那分量でも0月及びも0月とした)水系分数体を 得た。とれらの風鬱粘度及び濃度を第1妻に示す。 多考例 1

## # ¥ ( UW-#0, エンゲルハード | { 4 9

特願昭57-184430(8)

第 1 #

100年に、「アロンマー40」Q1部(個形分量)を加え、実施何1と問題にして固形分換度 705の水系分数体を得る。その見掛給度を第1 表に示す。



·	类聚	カルシ	ウム値	战	B 41-	GD 54 ()		
#INL	平均1	位子经	概合理	建量比	B-粘度		固彩分	
	DI	Dz	.D:	De	срв	сря	議度多	
突旋例(	0.80	804	94	•	600	470	71	
" 2	080	.008	60	40	480	805	7 0	
. 8	0.2 6	0.08	70	80	600	480	71	
* 4	0.8 0	0.08	90	10	420	480	7 1	
- 5	0.8 0	0.8 0	80	40	700	860	7 2	
- 6	9.5 0	0.1 2	80	80	220	280	7 0	
比较何1	0.20	-	100	0	1 0,0 0 0	1.1 1 0	7 0	
. 1	0.20	-	100	0	750	8,8 2 0	71	
比较何 1	0.50		100	0	260	8400	70	
- 4	-	0.0 8	0	100	1,500	20	50	
· . 5	-	0.04	0	100	7,400	16	50	
84何1		( 1	* 9 >	)	215	600	7 0	

上記算1歳より、本強明の水系分散体(実施例 他1~6)は、いずれも二種の投験カルシウムを 併用したととに基づいて、高濃度水系においても 見掛粘度が低く、特に高勢断時(日-粘度)の間 著な改造(複動性肉上)が認められるととが何る。 <価数組成物の個数>

上紀各例で得た水平分散体 1 0 0 部 (図形置を として) に、 無限でん粉 (日本食品加工株式会社 製、 MS # 4 6 0 0 ) 8 部及びラテックス (住友ノー ガタック株式会社製、 SN 8 0 7 ) 1 8 部を均一に 混合して、 本発明の動被組成物 M 1 ~ 6 、比较組 成物 M 1 ~ 5 及び参考組成物 M 1 の夫々 (各番号 は 央々実施例、比較例及び参考例に対応する)を 関係する。

<油工紙性油試験>

上記で得た各組成物の夫々をメートル坪量84

8 / 町の原紙のフェルト側に、独工量が失々11.5

士&88/町となるように、コーテイングロットを
用いて学動りし、麻粗乾燥機、シーズニング
(30℃、65分配)を一夜行ない、次いでスーパーオレンダー処理(兼圧50切/cm、テルドロール鑑度60℃、通紙回散8回)して、仕上げた。
得られた各能工紙の性能を以下の方法により失々
調べた。

(I) 連気変; JIS P 8117 による。

() ピック強度; ピックキングオイル「L」(TV-10)を用い、IGT 印刷液性試験機(無谷環機製)により側定

ナる。

**仏光沢度; JIS P 8148 だよる。** 

得られた結果を用いた組成物の确定と共に下記 解ま表に示す。

解 2 典

				由工新任業				
组成物心		組成物 装度博	通免股(砂)	ピック強度 (ca/8)	先尺度(75度) (白藍田)			
*	ì	6.4	2050	165	04			
	8	6.3	1600	157	6.5			
発	8	64	1640	159	64			
ł_	4	6 4	8000	160	6 2			
匆	5	6.5	1470	167	6 1			
	6	6.8	1750	172	57			
İ	ı	6.6	1150	125	6.2			
比	2	57	1160	108	64			
~	8	57	1140	129	5.2			
	4	4.8	910	8 5	7.0			
	6	4.8	890	5 4	76			
#4例1		6.8	2700	154	67			

上記篇を表より、本発質の重複組成物は、とれ

## 福服57-184430 (8)

を用いて得られる地工版化、優れた遊気皮、ピッ ク強度も与えることが明らかであり、光沢皮も公 如のそれらと適合はなく、従つて各種高級印刷用 水系施被料として個めて有効である。

#### (銀科性物試験)

上記実施例 8 で得た本発明水系分散体及び比較のため比較例 1 で得たそれの夫々を用い、下記部 8 表に示す組成の高元択エマルジョン強料を作成した。

. . .

	本発明品	比較品
(故歌カルシウム/硬化テタン) ま ¥ C 比	10/15	10/18
实施例 2 0 分散体	7. 8 🕮	-
比較何1の で	· <b>-</b>	7.8
<b>単化チタン</b> 単	1 8.7	l 8.7
エマルジョン 章章 (国形分)	2 8.5	2 8.5
ブナルセニジルブ	1.9	L.
プロピレングリコール	5.0	5.0
JAFF MA 108	0.2	0.8
/ To NDW	0.8	0.2
74-22	0.8	4.2
*	884	4 2.5
N. V. (4)	6.6	5.0

第8表中聚化テタン<sup>条</sup>は、「タイペータ B - 9 8 6」(石原放廃社製品)を用いた。またエマルジョン<sup>条条</sup> は、「ポンコート BC 8 8 1」(大日本インキ化学社製品、アクリル - ステレン共業合エマルジョン、N、V、-8 1 6)を用いた。

上記で開発した各独製の始製性能を以下の通り 求めた結果を第4束に示す。

(I) 職務引張を強す; 0.10 m 原職職につき、1号 ダンベルに回断し、引張を逃

皮もりm/分で製定した。

(協権観視対象 ; JIS K 5400(1979年) により制定した。

#### B 4 B

	本発明品	比较品
金銀引張り強者 (ロ/山)	0.18	0.08
<b>垫装锭</b> 闭龙尺 ( & 0°− 6 0°)	7 0	6.4

上記館の表及び館も表より、本発明本系分数体は、とれを用いてN.V.を高めた高光沢エマルジョン曲料を開製でき、また得られる曲料は抽象引張り並る及び抽動機面光沢にかいて非常に改善された伸伸を分与し得るととが問らかである。

(以上)

代理人 弁理士 三 快 英



#### 韓正の内容

- 1) 明顯者中等許請求の範囲の項の記載を別載の みかれ正する。
- 8) 明維書中の記載を下記正義表の造り訂正する。

<b>X</b>	fī	84	Œ
9	6~7	沈降性	沈 簿
1.4	1 2	* *	黄果堆
8 2	6	付名本	任选多

(以上)

### 手続補正魯(日格)

昭和5.6 年 7 月 3 日

特許庁長官 品田谷樹

- ].事件の表示
  - 昭和 56年 特 許 監第 69140 号
- 2. 発明の名称 高速度価粒性炭酸カレシウム水系 分数件及び整装組成物
- 3. 補正をする者

事件との関係 特許出職人

鞋式会社 白石中央研究所

4. 代 理 人

大阪市東区平野町 2 の10 平和ビル内 電話08-203-0941(代) (6521) 弁理士 三 枝 英 二記記

- (6521) 弁理士 三 枝 英 二 5. 補正命令の日付
- 6. 補正により増加する発明の数
- 7. 補 正 の 対 象 明**編書中特許請求の範囲の**項及び

発明の評価を説明の項 8. 袖 正 の 内 容 特 肝 厅 56 7. 6 出版第三组 音 篇

別紙家附の通り

#### 特許技术の範囲

- D 平均数極が 0.1~1.0 mm の 化降炭酸カルシウム(j) 6 0~9 5 宣電がと、上配平均数極の 0.8~0.8 倍の平均数極を有する沈降炭酸カルシウム 1.0 0 宣量部に、高分子ポリカルポン酸系分数剤 0.1~1 0 宣量部及び無機電解質 0.0 1~1 0 宣量部を配合してなり、金国形分機度が 6 0~8 0 宣彙がであることを特徴とする高温 医低粘性炭酸カルシウム水平分数体。
- ③ 高分子ボリカルボン酸系分数剤が、アクリル酸素合物、アクリル酸ーマレイン酸共富合物、アクリル酸ニステル共富合物及びマレイン酸とステレン、的酸ピュル又はエテレンとの共富合物から最ばれ、含合物中に少さく

とも15%のカルボキシル基を含有する分子量 500~10000の水体性物質及びそのアルカリ塩である特許請求の範囲第1項に記載の分数体。

- ② 無機電房質がカルシウム、亜鉛及びマグキシウムの水酸化物、塩化物、硫酸塩及び碘酸塩から退ばれる特許指求の範囲第1項又は第3項に 配成の分数体。
- ④ 佐賀斯時見掛帖室が1000 °P®以下及び高 野斯時見掛帖室が500°P®以下である特許請 求の範囲第1項乃至第8項のいずれかに記載の 分数件。
- ③ 平均数量が 0.1~1.0 mm の比降炭酸カルシ ウム(j) 6 0~9 5 重量 % と、上配平均数量の 0.2~0.8倍の平均数量を有する比降炭酸カル

ドラクリル酸エステル共富合体から選ばれた少なくとも1種の水性エマルジョンである特許情求の個囲館5項に記載の組成物。

特別昭57-184430 (11)
シウム(1) 5~40重量%との混合炭酸カルシウム 100重量器に、高分子がリカルがン理系分数解 0.1~10重量器及び無機電解質 0.01~10重量器を配合してなり、金団形分機度が 60~80重量%である高速度低粘性炭酸カルシウム水系分数体の100粒燥重量器に、パインダー5~25重量器を配合してなり、金団形分機度が50~75重量%であることを特徴と する高濃度低粘性炭酸カルシウム系強被組成物。

③ パインダーが、でん粉、変性でん粉、カゼイン、ステレンーブタジエン共富合体、アクリルーステレン共富合体、メテルメタクリレートープタジエン共富合体、エテレンー酢酸ビニル共富合体、アクリル酸エステル富合体、メタクリル酸エステル電合体及びアクリル酸エステル。

#### 手 続 補 正 譽(銀)

. 昭和56年10月21日

特許庁長官 島田春樹 殿

1. 事件の表示

四新 6 年 ab 非 超第 6 9 1 4 0 号

- 2. 発明の名称 高濃度低粘性炭酸カシックム水系分散体及び強被組成物
- 3. 補正をする者

事件との関係 特許出職人

施式会社 白石中央研究所

4. 代 理 人

大阪市東区平野町 2 の10 平和ビル内 電話06-203-0941(代) (6521) 弁理士 三 枝 英 二

- 5. 補正命令の日付 官 発
- 6. 補正により増加する発明の数 \_
- 7. 袖正の対象 明確会中発明の詳細な影明の8
- 8. 補正の内容

別紙邸附の通り

#### 福正の内容

- (i) 明細書館 + 2 頁館 4 行「好ましい」とあるを 「実用上好ましい」と訂正する。
- (2) 明細書第16頁第6行「所定量の」とあるを 「所定量の無機電解質の水機関被及び」と訂正 する。
- (3) 明朝書館 | 6頁館 | 3行「される。」とある を次の通り訂正する。

(4) 明報書第25頁第4行「・・・に示す。」とあるを次の通り訂正する。

このものの見掛船皮を開機にして求めた結果を第1表に示す。」

(6) 明細審部28貞部1表中「実施例系6」の項と「比較例系1」の項の間に、下記「実施例系7」の項を挿入する。

١,										,
	•	7	0.20	0.08	60	40	560	280	70	
										•

- (6) 明報書第29頁第2行及び第11行に夫々「瓜 1~6」とあるを、それぞれ「瓜1~7」と訂正 する。
- (7) 明編書第31頁記載の第2姿の『本発明組成物 ※6」の項の後に、下記「本発明組成物系7」の 項を追加する。



(以上)

#### 「・・・・に示す。

安监例 7

平均粒径( D<sub>I</sub> )が 0.0 8 μm ( D<sub>I</sub> の 0.4 倍)で固形分換度が 1 0 % の沈降段像カルッ ウム (I)の水脂毒液 1 0 0 0 0 f ( CaCO<sub>3</sub> として 1 0 0 0 f 、 4 0 % )と、平均粒径 ( D<sub>I</sub> )が 0.2 μm で固形分換度が 1 0 % の沈降段像カルックム (I)の水脂毒液 1 5 0 0 0 f ( CaCO<sub>3</sub> として 1 5 0 0 f 、 6 0 % )とを、 4 0 f のステッレス容器に 仕込み、 光馬力デイスパーで 使拌風合後、 脱水、乾燥、 粉砕して配合炭 像カルックム粉体を得る。

次いで上記的体 | 0 0 % に対して、分散剤として「アロップ・4 0 」を固形分換算で 1.5 % 及び水酸化カシックムを Ca(OH) 2 として 1.0 % となる制合で水と共に加え、以袋実施例 | と同機に慢拌昆合して固形分換度 7 0 %の水系分数体を得た。

# This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

defects in the images include but are not limited to the iter	ns checked:	
☐ BLACK BORDERS	·: · · ·	
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES		-
FADED TEXT OR DRAWING	•	
☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING		
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES		
☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS		
☐ GRAY SCALE DOCUMENTS		
☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT		
☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR Q	UALITY	
OTHER:		
IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.	•.	

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.